

2) フレンツ神父小講話 (2020年4月15日) 英語からの訳 Ignacio T.

朗読 使徒言行録 3 : 11-20

福音 ルカ 24 : 13~35

父と子と聖霊の御名によって、アーメン。

復活されたイエスは讃えられますように。 イエスの母、祝福されたおとめマリアは讃えられますように。

兄弟姉妹の皆さん、英語を話される兄弟姉妹の皆さん、特に日本におられる兄弟姉妹の皆さんへ。

本当なら、今日(4月15日)から私は日本にいるはずなのです。 皆さんと一緒にイエスに従うことを試みてみたいと思います。

今日の典礼では福音書の二か所からどちらかを選べます。 墓に立ってイエスを探しているマリア・マグダレナの美しい福音か、あるいは再度、エマオの弟子を選んでも構いません。 私はエマオの弟子を選ぶことにします。 この福音は今の時に非常にふさわしいです。 なぜでしょうか。 今からその説明をします。

弟子たちにとっての大きな疑問、それは私たちの持つ疑問と同じです。 「イエス様、あなたはどこにおられるのですか？」 初聖体の準備のために8歳から9歳の子供たちとカテキズムを勉強していたとき、この福音を選んだのですが、子供たちは本当はかなり良く理解しました。 イエスがおられてパンを割かれたとき、エマオの弟子たちはイエスに気づきました。 イエスがパンを割かれた後、二人の目は開かれたのです。 二人はイエスに気づきました。 その後に起こったのは、イエスが消えたことです。 突然いなくなってしまうました。 私は子供たちに質問しました。 二人はイエスが消えてしまったので悲しかったですか？ 子供たちはそんなことはないと言いました。

「二人は悲しくなかったよ。」 「悲しくなかったって？ どうしてそう思うの？」 子供たちは言いました。 「イエスがそこにおられたからだよ。 二人はイエスに気づいたんだよ。」

「でもイエスは消えてしまったよ。 今どこにいるの？」 子供たちの答えは驚嘆すべきものでした。 私は子供たちにとってもとても驚きました。 彼らはあまりカテキズムを知らず、家でもあまり祈ってはいません。 その彼らが言いました。

「イエスは二人の中にいたんだよ。」 でもどうしてそれが可能となるのでしょうか？ 彼らは私に説明してくれました。 「二人はイエスが割いたパンを食べたからさ。」 彼らは聖餐式(御聖体)の深い意味を理解していたのです。

兄弟姉妹の皆さん、弟子たちが悲しかったことはあり得なかったのです。なぜならイエスが彼らの中におられたからです。次に彼らは走ってエルサレムに戻り、経験したことを他の弟子たちに話しました。エルサレムでも弟子たちにイエスが現れましたが、イエスがエマオで二人の弟子に現れたとき、割かれたパンの中におられるイエスの現実性が示されたのです。イエスは彼らの心、彼らの体、彼らの命の中にいるという現実を。イエスはこの体験を、私たち一人ひとりに与えたいと願っておられるのです。

兄弟姉妹の皆さん、昨今、イエスはどこにおられるのでしょうか？ 私たちがコロナウイルスにより閉じ込められている今、イエスはどこにおられるのでしょうか？ 多くの人々は尋ねます。家にとどまらなければならない今の時、人々は尋ねます。「神父様、私たちは教会に行きたいのです。御聖体をいただきたいのです。」「イエス様はどこにおられるのですか？」

兄弟姉妹の皆さん、私たちはルカによる福音書の24章全体を読まなくてはなりません。最初は悲しい話でした。二人の弟子は落胆していました。うつ状態にありました。霊的なうつ状態にあったと言ってもいいでしょう。ですから二人はエルサレムから立ち去ったのです。二人にとってエルサレムはもう終わりでした。すべては終わりました。エルサレムから期待できるものはもう何もありませんでした。私が思うに普通に考えれば、彼らは、家に帰ろうとしていたのです。家に帰ろうとするとイエスがおられました。同じ道にイエスがおられましたが、二人はイエスに気づきませんでした。でもイエスは二人に聞きました。あなたがたの心の中にあるものは何ですかと。それで二人は自分たちの悲しみをイエスに分かち合いました。

兄弟姉妹の皆さん、ここがポイントです。非常に重要なポイントです。私たちは悲しみをイエスに打ち明けなければなりません。たとえ「イエスはおられない」と感じて、あなたが私や他の人に分かち合うように、あなたの悲しみをイエスと分かち合ってください。あなたは涙を流すかもしれません。泣くかもしれません。でもあなたが主の前に行ってすべてを話すことはよいことです。そして少し時間を取りましょう。聴く時間をです。心の中で聞きましょう。福音を読む時間を持ちましょう。詩編で祈る時間を持ちましょう。そしてあなたは見るでしょう。ゆっくりとゆっくりとあなたの目は開かれていくのを。ちょうど二人の弟子が、「あの方が福音を説明してくださったときに私たちの心は燃えていたではないか」と言ったように。

兄弟姉妹の皆さん、今がその時です。イエスは、私たちの心が燃えることを願っておられます。心に火がつき、イエスのために燃えることを、キリストのために本当の情熱をもって、また福音を伝える情熱をもって燃えることを願っておられます。

私は神に感謝します。非常に特別な日にこの福音を分かち合うことができることを。この分かち合いがどのような実りをもたらすか、私たちは見ることになるでしょう。イエスは約束してくださいました。行って福音を宣べ伝えなさいと言われました。

私たちは今、それをしています。私は主に、私たち皆を祝福してくださいと願いました。私たち司祭は毎日ミサを祝う特権があります。でも、理解してくださいと思いますが、私たちが一人でミサを祝うのは苦しみでもあります。私たち司祭はまわりに人々がいることが普通なのです。私たちは自分たちのためだけにミサを祝っているではありません。祝うことは他の人々のためです。イエスは言われました。私の記念として、命のパンに飢えている人々のためにこれを行いなさいと。私たちは皆それに飢えています。

私は最近、あなたがた皆と一つになってミサを祝っています。ルクセンブルクの私の町にいる人々だけでなく、特に日本におられる兄弟姉妹の皆さんのためにもミサを祝っています。その皆さんとは今、霊的黙想会を一緒にしていたはずです。私たちは一つです。私たちはイエスと共に、またイエスを通して霊において一致しています。

イエスを通して神があなたがたを祝福してくださいますように。そしてあなたがたの家族全員を祝福してくださいますように。

福音を分かち合ってください。主に叫んでください。主は現存しておられます。神の尊い御血があなたがたを祝福し、あなたがたに、あなたがたの心に平和を与えてくださいますように。

父と子と聖霊の御名によって、アーメン。